

4. 頭蓋底腫瘍

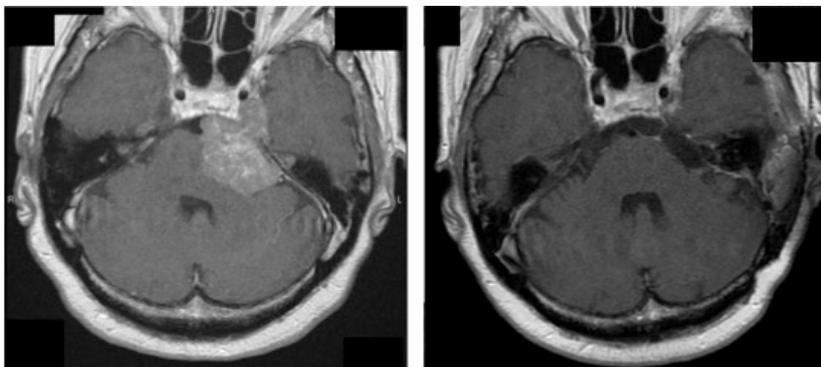
頭蓋底腫瘍について

脳が中に納まっている頭蓋骨は、頭の形を形成し脳を守っているドーム状の頭蓋冠部と脳を下から支える床のような役割をする頭蓋底部に分かれます。頭蓋底腫瘍とは文字通り頭蓋底部に発生する腫瘍の総称であり様々なものが発生します。髄膜腫、神経鞘腫、下垂体腺腫、類上皮腫などの脳の外側から発生する良性腫瘍の他、頭蓋底部の骨を侵す脊索腫、軟骨肉腫などの中等度悪性の腫瘍、耳鼻咽喉科や眼科で取り扱う悪性腫瘍が頭蓋底部から頭蓋内へ発育したものなどを含みます。

脳を栄養する太い血管や脳から出る多数の脳神経は、頭蓋底部の骨を貫通して走行するため、頭蓋底腫瘍はこれらを圧迫もしくは内部に巻き込みながら発育します。また頭蓋底腫瘍は頭蓋骨の中心付近に存在するものが多いため深い手術野での摘出となります。これらの悪条件下で正常な脳血管や脳神経を傷めない様に腫瘍を摘出するのは容易ではありません。頭蓋底疾患を取り扱う手術を頭蓋底外科手術と呼びますが、頭蓋底部の複雑な解剖に精通し、かつ脳の圧迫を最小限にしながらできるだけ広い手術野を得るための様々な手術アプローチに習熟していなければ行うことができません。専門性の高い領域ですが、当院ではこの様な頭蓋底外科手術にも対応可能です。

【頭蓋底髄膜腫】

症例1：三叉神経痛で発症した錐体斜台部髄膜腫。複合錐体アプローチにて全摘出後、三叉神経痛は消失し、新たな神経症状の出現なし。



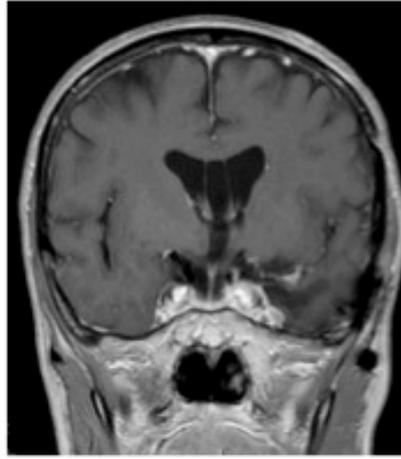
術前

術後

症例2：視力低下、視野狭窄で発症した前床突起部髄膜腫。術後、視機能は正常化し、新たな神経症状の出現なし。



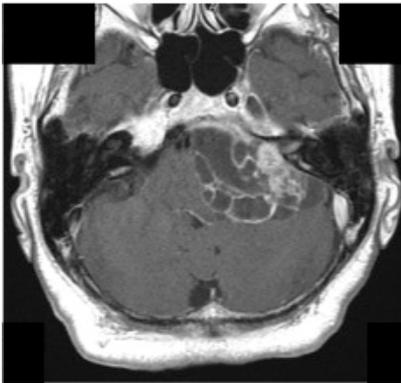
術前



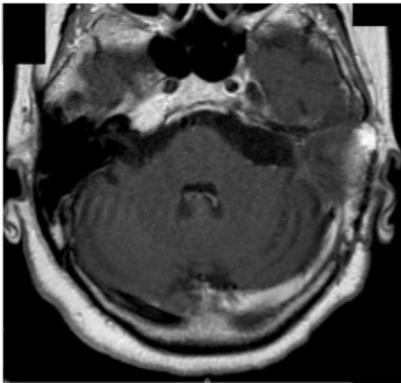
術後

【大型聴神経腫瘍】

症例：高度難聴、歩行時困難を呈した最大径約 6cm の聴神経腫瘍。経迷路アプローチにて全摘出後、歩行障害は消失し、顔面神経麻痺の出現なし。



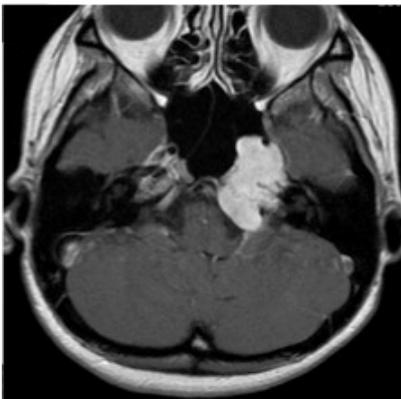
術前



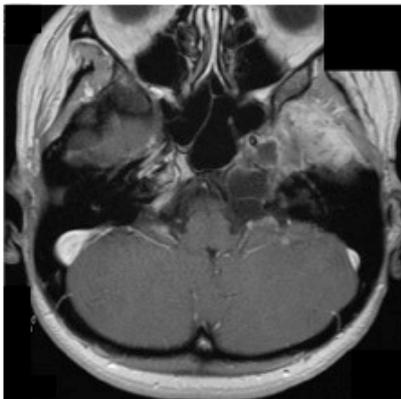
術後

【脊索腫】

症例：外転神経麻痺による複視で発症した脊索腫。前方経錐体アプローチにて摘出。術後、複視は改善。



術前



術後